【公報種別】特許法第１７条の２の規定による補正の掲載
【部門区分】第６部門第２区分
【発行日】平成23年8月4日(2011.8.4)

【公開番号】特開2009-300885(P2009-300885A)
【公開日】平成21年12月24日(2009.12.24)
【年通号数】公開・登録公報2009-051
【出願番号】特願2008-157017(P2008-157017)
【国際特許分類】
Ｇ０２Ｂ　26/12　(2006.01)
Ｂ４１Ｊ　2/44　(2006.01)
Ｈ０４Ｎ　1/113　(2006.01)
Ｇ０２Ｂ　7/18　(2006.01)
Ｇ０２Ｂ　5/08　(2006.01)
【ＦＩ】
Ｇ０２Ｂ　26/10　１０２
Ｂ４１Ｊ　3/00　Ｄ
Ｈ０４Ｎ　1/04　１０４Ａ
Ｇ０２Ｂ　7/18
Ｇ０２Ｂ　5/08　Ａ

【手続補正書】
【提出日】平成23年6月16日(2011.6.16)
【手続補正１】
【補正対象書類名】特許請求の範囲
【補正対象項目名】全文
【補正方法】変更
【補正の内容】
【特許請求の範囲】
【請求項１】
光ビームを偏向走査する回転多面鏡、及び、前記回転多面鏡と一体的に回転する回転部材を有する回転部と、前記回転部を回転させる駆動手段と、を備える光偏向装置において、
前記回転多面鏡は、
所定の肉厚で形成される基準肉厚部と、
前記基準肉厚部よりも薄い肉厚で前記基準肉厚部に形成され、バランスウエイトが付与された環状かつ凹状の環状凹部と、
前記環状凹部よりも前記回転部の回転中心から遠い位置で、前記基準肉厚部よりも厚い肉厚で前記基準肉厚部の表面に形成され、上面が平坦で環状かつ凸状の環状凸部と、
前記基準肉厚部の裏面に形成され、少なくとも前記回転部の回転中心から前記環状凸部までの距離と同一距離の位置に平坦に形成された平坦面と、
前記回転中心から見て前記環状凸部よりも遠い位置に形成され、前記環状凸部よりも薄い肉厚の部位と、
を備えることを特徴とする光偏向装置。
【請求項２】
前記環状凸部の上面は、前記回転多面鏡の表面上で最も高いことを特徴とする請求項１に記載の光偏向装置。
【請求項３】
前記環状凸部の上面には、断面視で凹状の環状溝が円周方向に形成されることを特徴とする請求項１又は請求項２に記載の光偏向装置。

【請求項４】
感光体に対して光ビームを偏向走査する光学走査装置において、請求項１乃至請求項３のいずれか１項に記載の光偏向装置を備えることを特徴とする光学走査装置。
【請求項５】
シートに画像を形成する画像形成部と、請求項４に記載の光学走査装置と、を備えることを特徴とする画像形成装置。
【手続補正２】
【補正対象書類名】明細書
【補正対象項目名】００２４
【補正方法】変更
【補正の内容】
【００２４】
上記課題を解決するために、本発明の光偏向装置は、光ビームを偏向走査する回転多面鏡、及び、前記回転多面鏡と一体的に回転する回転部材を有する回転部と、前記回転部を回転させる駆動手段と、を備える光偏向装置において、前記回転多面鏡は、所定の肉厚で形成される基準肉厚部と、前記基準肉厚部よりも薄い肉厚で前記基準肉厚部に形成され、バランスウエイトが付与された環状かつ凹状の環状凹部と、前記環状凹部よりも前記回転部の回転中心から遠い位置で、前記基準肉厚部よりも厚い肉厚で前記基準肉厚部の表面に形成され、上面が平坦で環状かつ凸状の環状凸部と、前記基準肉厚部の裏面に形成され、少なくとも前記回転部の回転中心から前記環状凸部までの距離と同一距離の位置に平坦に形成された平坦面と、前記回転中心から見て前記環状凸部よりも遠い位置に形成され、前記環状凸部よりも薄い肉厚の部位と、を備えることを特徴とする。